

皐月俳句・短歌集

篠南川柳会

智恵袋底が裂けたか出て来ず
ていねいな言葉使えばとちる舌
良い品種違いがわかる生産者
旨い物ひと味違う塩加減
読めないが流れるような草書観る
こんな字も忘れたのかと辞書を引く
うっとり湯船につかる至福時
親がする子がするように孫がする
すまし顔一段違うボタン穴
あとちよっと無理やり詰めるゴミ袋
躓いて恥ずかし紛れ舌を出す

内海俳句会

梅古木威儀を正して芽吹きたり
風の意か蝶と化したり豆の花
万緑の詠歌連峰舒しぬ
今生の華と仰がむ花万朶

菊川俳句会

鶯に呼び止められし山路かな
同志寄る好天見頃の花見酒
閉校や児らの声消え散る桜
口開けて寄り来る鯉や花筏
そよ吹けば喇叭水仙そよと揺れ
啓蟄やそよと踏み出す草の上

はじめまして。赤ちゃん。

3月受付分(敬称略)

地区名	子の名	保護者
-----	-----	-----

ご冥福をお祈りします。

3月受付分(敬称略)

地区名	亡くなった方	享年
-----	--------	----

田中すみ子
木本 清子
田村 京子
前田由紀子
田中 保美
芝田 憲蔵
谷口千代子
松本もとお
松本 安子
射場ちずる
篠原みち子

太田 信子
岩森十志子

宮下 熊夫
井関 禎美
井関 満子
小野山シマ子
村尾加都子
長田 高明

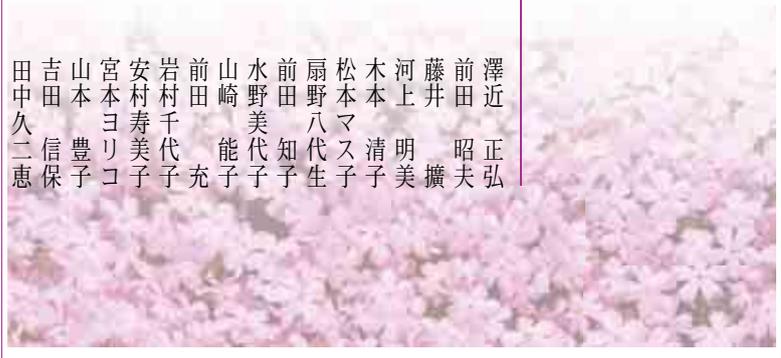
さわらび短歌会

機知に富む講演楽し春うらら
盃に夜桜散らす薄明り
引き潮に身を任せつつ花筏
新しき仲を取り持つ宴桜
にんまりと今年もやります四月馬鹿
梅の実やふくれつつらすの子供かな
泣き止む子紫雲英一つを髪に挿し
春風杉の枝葉をゆさぶるな

長田千恵美
中川 一喜
長尾 則夫
森 早織梨
橋本ひかる
鱒 瑞貴
小野山果林
宮本 翔吾

剣道着年齢顧みず新調す生きてるうちは青春なんだ
溶接機長年使いて故障せり兄弟寄りて知恵を出し合う
桜ばな散りてしまえばこの町は寂しきまでに人声もなし
広い空川の流れも知らずして二匹のメダカ五年を生きる
あと二人手紙書きたき人がいて急いで蒔きし種散らばりて
きのう打ちしわが畑の土朝よりの温き雨に黒々とあり
延光寺の裏山桜満開のミニ四国参る木漏れ日の中
どれほどの余生と知らず春を待つ白寿のひとの言の葉身に沁む
手伝いに帰りに娘は庭隅の露を摘みきて昼餼に添うる
障子破る悪しき遊びを覚えたり止めても曾孫すぐまた破る
木蓮の花いつせいに咲きたれば遺影に近き窓開け放つ
箱苗に水をやりつつこの朝も生き生きゆらぎ田植えも近し
人は皆死ぬものなれど遺されし者の悲しみは波のように来る
休みづかれと先生は言われるも完治たまわり必ず叶う
梅祭り何年振りかに誘われて南楽園を娘に添い巡る
突然に朝のニュースは打ち切られチリ地震津波岩手に着きしと
外孫の次男に「歌月」と名をつけて歌をもつくる子にありたしと

澤近 正弘
前田 昭夫
藤井 擴
河上 明美
木本 清子
松本マス子
扇野八代生
前田 知子
水野美代子
山崎 能子
前田 充
岩村千代子
安村寿美子
宮本ヨリコ
山本 豊子
吉田 信保
田中久二恵



※上記情報は、広報誌掲載に対して、ご家族等に同意をいただいております。